

リノベと まちの再生

小川町商店街にある大池早代さん宅で、空き家をリノベするワークショップが開催。講師の加藤潤さんにリノベの魅力を聞きました。



コミュニティ大工
加藤 潤 さん(54)

埼玉県出身。鹿児島県南九州市^{えい}市^い戸^い町^ち在住。弟と「タツノオトシゴハウス」を運営しながら、空き家再生やまちづくり、地域おこし協力隊の支援を行う。全国各地でまちおこしの講演も行っている。

まちおこしと空き家

12年前に東京から鹿児島へ移住。観光地づくりを経て、古びた商店街の再生を始めました。昭和40年くらいまではお店が100軒くらいあったのが、平成28年には8軒に。空き家となった多くの物件の1つに目を付け、みんなでリ

ノベし、地域住民が集まる交流拠点を作りました。

イベントなどを開催し地域が少しずつ動き出すと、興味を持った移住者が来街。でも、田舎だから不動産業者が機能しておらず、住む家がない。そこで、たくさんある空き家を活用することにしました。大家さんは「親戚が帰って

来るかも」「他人に貸すのは不安」と話し、借りられそうな物件でも、物がいっぱい、脱衣所がない、など住みにくい。だから全部自分たちの手で改修することに。

コミュニティ大工の役割

不動産業や建築業はプロ。もうからないことはしない



1 雨漏りの原因になる屋根の状態と雨どいのゆがみ 2 床下地面の湿気はシロアリ繁殖の危険あり 3 電力状況の確認方法を説明 4 参加者みんなで床のくぎ打ち

し、地域には入れませんよね。だから改修作業はもちろん、大家さんとの交渉や契約書の作成なども行う。これがコミュニティ大工の仕事です。私は元々DIYが趣味の素人。でも経験を積むと家の見

方も分かってきます。例えば床が抜けそうでも、角材を何本か張り替えるだけで数百円で修繕できることも。そういった情報はワークショップでも学べます。今回の参加者が他の場所でも自分でできる

ようになればうれしいです。また、私は施主たちと和やかに作業します。カフェやゲストハウスなどで協力して行うと、完成するまでに店のファンが増えることも。一緒に楽しくが大事ですね。



voice

使ってもらい、まちも活性化できたら

所有者



ひまし
宮本 久志 さん(60)
- 松橋町 -

叔母が雑貨屋をしていて、5年前くらいに譲り受けた建物。息子が今の家に来たら、自分でここを改修しながら住もうかなと思っていました。ただ、その息子は別に家を構え、私も60歳を迎えて費用面でも不安が…。仕事を辞める65歳くらいから改修を始めるにしても、体力や気持ちの面でできるのかなと思っていた

ころ、大池さんに出会いました。シャッターが目立つ商店街に貢献し頑張っていると聞き、これも何かの縁と貸すことに。私も幼い頃に遊んだこの家や商店街には思い入れがあります。発想が豊かな若い人たちに、まちの活気を生む場として大事に使ってほしいです。まちがどうなっていくかも楽しみです。

voice

1日中いられる楽しい家に

賃借人・リノベ施主



きよ
大池 早代 さん(32)
- 小川町 -

私は同世代の仲間2人と(一社)kiteを立ち上げ、風の館塩屋を中心に小川町商店街を楽しい場所にしたと取り組んでいます。そんな、日頃から活動する商店街で住居を探していて、この空き家に出会いました。今は、和室を洋室にしたり、壁に漆喰を塗ったりとリノベを行っています。元雑貨屋のこの物件は、お店

部分が広々としているので、住みながらどんな風に活用していくか考えていく予定です。地域の友達と遊べる、楽しく居心地がいい空間にしていきたいと思っています。



改修中、地域の人が応援に